

軍事・歴史・政治・経済研究紙

MONTHLY DAITOH-NEWS

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

民主主義が理解できない日本人

愚民と衆愚の愚の民主主義

現代、何でも民主主義を標榜すれば、一般には聞こえがよい。しかしその裏に隠れているのは、アメリカに追随する政治システムであり、アメリカを模倣する事、正義と錯覚する政治理念である。その理由の第一として、民主主義体制下では、国民が「愚民」であればある程、この政治システムは「悪魔の道具」になる側面を同時に持っている。

近代民主主義は、戦後欧米が持ち込んだ政治システムであるが、今日のように無知と事勿れ主義が蔓延し、政治と自分とは関係ないというような考え方が広く流布されている社会体制下では、有能な政治家を選ぼうとする事は極めて困難なことである。

現代の日本人は民主主義の真の意味を知っているか！

民主主義が正しく機能して、正しい政治家を選ぼう事が出来ると言う社会システムを確立する為には、国民全体の、その大半が今日の悪しき個人主義から脱して、良き個人として、一人一人がその自覚に目覚めなければならない。

ところが、まだ人類は、こうした高度な精神性と、戦争などを抑止する、問題解決へ向けての高度な精神的進化は達成されていない。世界各地では、至る所に戦争の火種が燦り、こうした災いを解決する叡智すら持ち得ないのである。

現代は激動の時代と標榜される。しかも日本は、常に激動の時代を約七十年周期で繰り返して来た。そしてその激動は、日本国内から発生するものではなく、常に外圧によって齎された。

七十年ごとに変化する歴史を振り返れば、近代史は、ペリーの砲艦外交による明治維新を切っ掛けに、日露戦争後の日本の大陸進出、ABC包囲網(一九四一年から翌年にかけて日本の東南アジア進出に対抗してとられたアメリカ(America)・イギリス(Britain)・中

国(Cina)・オランダ(Dutch)の協力関係とそれらの国による対日経済制裁)による大東亜戦争への蜂起、マッカーサー占領下の敗戦戦後の欧米主導型の民主主義導入などと、数えたら切りがない程総ては外圧によるものだった。その最たるものが民主主義の押し付けであった。

が、「自由」「平等」「人権」「議会制」に開与して、とんでもない方向に誤解され、この誤解が教育現場にも拡大されて、教育の無間地獄を作り出した。

その尤もよき例が「平等」の誤解であり、この誤解は「どの児童・生徒にも、同じ事をさせる」「学力あるいは才能で競ってならぬ」「という結果を生み出し、一方で、矛盾の最たる受験戦争を蜂起させ、真の意味での国家を担う知識の指導者の根絶に拍車を掛けた。

また、「自由」の誤解は、無規範の現実を齎し、青少年を本能の儘に放置する放任主義を社会に齎し、長らくマイナスイメージであった。

ヨーロッパの第三世代武装 (その三十一) イオンド大学教授 曾川和翁



スウェーデン軍のドイツ製戦車レオパルド2-A5

いまヨーロッパでは第三世代の武装が密かに進められている。特にスウェーデンでは、独自の無砲塔戦車Sタンクなどをはじめとして、センセーショナルな戦車を開発し、近未来の特異な戦

九州科学技術研究所 Kyushu Technology Institute. URL: http://www3.ocn.ne.jp/saigouha/

世界恐慌の前触れ(87)

国家は徴税権があるため、将来の徴税を担保に、後の世代に対し、ツケを廻すと言う手法で現実の借金王国の急場を凌ぐようとしている。そして溜まりに溜まった国債にしても、毎年度、一・六%という、いつ終わるとも知れない六十年償還を行い、しかしこれはただの一度も償還されていない。

政府御用達の経済学者達は口を揃えて、「国債発行残高は一四〇兆円まで大丈夫」というような、安易な愚測があり、更に国民を騙し続けている。

郵便貯金や年金の預かり金、保険料などは国民の資産であり、これを原資とする財投は、それを来るべき支払日に預金者や保険加入者に利子を付けて払わなければならないのである。

また、特殊法人とは、水資源開発公団や日本道路公団などで、八〇以上もこうした団体がある)では、そうしたことが顕著に顕われている。

しかし借金であると言う図式は、「兆」の世界に至っても変わることはなく、返済の当てのない特殊法人に、借金の利払いを更に貸し出すと言う財政融資の不可解な仕組みは、九五%の確率で、そう遠くない将来に、日本を破綻に導く危険性を孕んでいる。

このヨーロッパ全領土を一つの国家と看做し、平時には聯隊編成であるが、一度戦時に至ると、旅団は拡大されて、機械化大隊が3個、それに対戦車大隊、工兵大隊、兵站大隊、砲兵大隊が各1個、更に対空部隊2個、司令部中隊という編成が組みまれ、既にレーザーシュミレーターを使い、実戦を推定した訓練が開始されている。